金曽木だより

台東区根岸４－16－22　TEL 03(3876)3701 FAX 03(3871)9507
https://taito.ed.jp/swas/index.php?id=1310218

令和5年度　　2月号
台東区立金曽木小学校
校長　細田儀広
令和6年1月31日（水）

教育目標　たくましい子　自ら学ぶ子　思いやりのある子　自分のよさを伸ばす子

「だから」⇒「そうだとすれば」

副校長　前田　剛一

昨年の暮れに亡くなった脚本家の山田太一さんは、子どもの頃から思い込みが非常に強くいわゆる頑固者で、時々周りに迷惑をかけてしまうほどだったそうです。そんな山田さんでしたが、ある一人の国語教師に影響を受けたことがありました。フランスの思想家パスカルの有名な「考える葦」の授業でのことです。「宇宙はなにも知らない。だから、人間の尊厳のすべては、考えることのなかにある」。教師はこれを、「だから」を「そうだとすれば」と置き換えるべきだと教えました。「だから」は前提をすべて正しいと考え、結論をストレートに導く。一方、「そうだとすれば」と留保を付けた場合、他の可能性にも思いを巡らせるため、主張するにしても物腰が柔らかくなる。山田さんはこれをきっかけに、頑固な自分を自戒することを心がけるようになったそうです。

歴史においては、この「だから」で取り返しのつかない過ちをしています。最近読んだある新聞社の社説には、創刊140周年を迎えるにあたり、その歴史において、政府や軍の発表を鵜呑みにして、戦争に突き進む軍事国家の一端を担ってしまったマスメディアとしての責任は免れないと猛省していました。

現代はどうでしょうか。「A国はテロリスト。だから～」「B国はC国にいずれ侵攻する。だから～」など、今でも世の中は、「だから」から導かれる主張が横行しているように感じます。SNSには次々に言葉が流れ、答えや結論が即座に求められます。あふれる出る様々な投稿が真実であるのか、誇張されたものなのか、まったくの誤り（偽り）であるのか。そして、その不確かな情報に対して「だから」と言って、無責任な批評をしてしまい、人の心を傷つけてしまったというような話は枚挙に暇がありません。

先日、校内教職員研修として、玉川大学教授の梅田比奈子先生にご講演いただいた折、学級づくりをするときに大切なことの一つとして、「決めつけないこと」を挙げておられました。長く子どもたちの教育に携わっていると、決めつけてしまったために、対応を誤ってしまった苦い記憶もあります。私たちは、日々、多くの情報にさらされ、その中から正しく、価値のある情報を選択していかなくてはなりません。そして、子どもたちにメディアリテラシーの力を育み、コミュニケーション能力を高められるように働きかけていく必要がありますが、私たち大人が答えや結論を急ぐあまり、決めつけてしまうことのないよう「そうだとすれば」を心掛けることが大切なのではないでしょうか。

二十四節気では大寒を迎え、寒さがますます厳しい季節ですが、これから少しずつ春の兆しが感じられる季節となります。令和5年度も残り2カ月となりますが、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

●次年度も児童の「成長の機会」を増やし、新たな集団（友達関係を広げる）で、新たな個（自分）を発見できるようにするために、全学年でクラス編成替えを行います。